

山王台だより 7月号



【学校教育目標】「自分のよさに気付き、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる」

横浜市磯子区磯子5丁目2-1

TEL 045 (755) 1107

「闇」と「蛍」と上郷宿泊体験学習

副校長 岡崎 陽子

みなさんは、ホテルを見たことがありますか？私は、6月4～5日に行われた4年生の上郷宿泊体験学習で、生まれて初めてホテルを見ました。上郷の森では、ホテルを見ることができる場所があります。4年生の子どもたちは、夜の「ナイトウォーク」という活動の中で、ホテルが見られる場所まで歩きました。

引率の教員が持つ懐中電灯の他には、灯が一つもない夜の森は、文字通り「一寸先は闇」という感じでした。子どもたちは自然と肩を寄せ合い、手をつないで、道の中央を、はや足で進んでいきます。わざと怖い話をする子、怖さを吹き飛ばすように元気な声を出す子、黙って黙々と歩く子、一人ひとりが「闇」を肌で感じながら、歩いていることが分かりました。

集団の歩みがゆっくりにになりました。辺りを見回すと、空中に小さな点のような光が、ポッと灯っては消え、消えては灯る様子が確認できました。「これがホテルか…」私は生まれて初めて見るホテルにしばし見とれていました。

5年生の国語の教科書に清少納言の『枕草子』が載っています。その一節を思い出しました。

「夏は夜。月のころはさらなり。闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。」

(夏は夜がよい。月のころは言うまでもないが、月のない闇夜でもやはり、蛍がたくさん飛びかっているのはよい。ただ、一びき二ひきと、かすかに光ながら飛んでいくのも、しみじみとしてよい。雨などが降るのもよいものである。)

平安時代の清少納言が見た「闇」や「蛍」と4年生の子どもたちが見た現代の「闇」や「蛍」は違います。でも、どこか通じる感覚を味わったのではないかと私は期待しています。

体験したことが、すぐには結びつかなくても、あの時のあの感覚がそうかもしれないと、後になって思い起し、結びつき、実感を伴って理解できることがあると思います。4年生の上郷宿泊体験学習は、子どもたち一人ひとりの感覚に豊かな贈り物を残してくれた、すばらしい活動だったと思います。

音楽朝会…ぜひ、ご来校ください。

7月17日(火) 8時20分より

子どもたちの歌声を今月もお聴きください。

2年生の学年発表も予定しています。